

平成30年度 香中研研究主題

香中研研究部

1 研究主題(平成24年度より継続)

教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動

(キーワード) 継承・改善 研究体制 資質能力
主体的・対話的で深い学び カリキュラム・マネジメント

2 研究主題設定の理由

本会は昭和36年に発足し、県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言、支援を受けながら、また連携を図りながら本県の中学校教育の振興に大きく寄与してきた。本会を今後さらに充実・発展させるためには、次の3点の課題を解決する必要がある。

- ① 現在、教員の高齢化と大量退職に伴い、学校現場において、ベテラン教員の専門的な知識やスキルの伝承が課題とされている。また、各支部・部会における実質的な担い手が学校においても主要な役職にあるなど高齢化が問題となっている。今後、スムーズな世代交代を図り、研究方法や組織運営のスキル等を次の時代を担っていく若手教員に確実に伝えていく必要がある。(継承・改善)
- ② 教職員が研究授業や実践発表を進んで行う姿勢は、学校の活性化につながるものである。各学校においては、教職員に対して、研究会活動への積極的な参加を促すとともに、研究会の役割と意義について、自覚を求めていく必要がある。

また、各支部・部会における研究活動の成果や課題を教職員自らの実践としてさらに反映させるとともに、各学校においては、成果や課題を共有し合う場を設定するなど、香中研の研究活動を学校の教育活動に生かせるように、研究体制の更なる充実を図る必要がある。(研究体制)

- ③ 「授業が変われば、生徒が変わる」と言われるように、時代が変化しても授業力の向上は必要不可欠である。県教育センターの平成29年度全国学力・学習状況調査報告書の「質問紙調査の結果から見る5年間の軌跡～香川県版～」によると、「1,2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」の質問に対し、肯定的な回答が、平成25年の15.5%から平成29年の38.4%へと5年間で大きく増加している。「1,2年生のときに受けた授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」の質問に対しても、肯定的な回答が12.5%から27.1%へと増加している。これらは、各学校が進めてきた授業改善等の成果であり、香中研の研究主題を、これまでの生徒像から、個々の教師像や学校像に変更し、授業力を中心に教職員の資質能力に着目した研究を行ってきた成果でもある。香中研の自主研究団体としての性格を明確に打ち出し、加入する全教職員、全中学校に研究会の一員であることの自覚を促し、教職員の資質能力の向上や学校の教育力の向上をめざし、さらなる研究会活動の活性化を図る必要がある。(資質能力)

また、平成28年度の中央教育審議会答申において、授業改善に関わる次の新しい視点が示された。

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点
- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点
- ・ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

これら3つの視点に立った授業改善を行い、質の高い学びを実現するとともに、生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成をめざしていきたい。(主体的・対話的で深い学び)

さらに、生徒は学校教育活動全体の取組の中で育つ。そこで、各学校においては、

- ・ 生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
 - ・ 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
 - ・ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るようにしていきたい。(カリキュラム・マネジメント)

3 今後の研究推進について

本会が目的とするところは、生徒に生きる力を育てるために一人一人の教職員が、各支部・部会での研修等の活動を行うことで、個として高めた意欲や知識・技能が学校現場に反映され、学校が組織として機能する力として高められることである。したがって、本研究主題は、研究会活動とそれを生かす学校教育の在り方も視野に入れたものである。そこで、次の点に重点を置きながら、各支部・部会で計画的に実践していくこととする。

- ・ 研究の継続性を図るため、本研究主題を平成 32 年度まで継続する。
- ・ これまで各支部・部会で研究実践してきた指導法の研究を継続、発展させながら、ベテラン教職員から若手教職員への指導法等の継承を図る。
- ・ 継承の視点で見直した各支部・部会の研究体制のもと、授業に関する実践的研究等を組織的にを行い、改善の視点から研究の成果と課題を明確にする。

香中研研究主題を具現化するための留意点について

香中研の現状と課題は以下の通りである。

- 大量退職・採用による世代交代への対応
- 研究会活動への積極的な参加と役割・意義の自覚
- 研究会活動を学校の教育活動に生かすための研究体制づくり
- 授業力の向上、特に言語活動等の充実による思考力・判断力・表現力の育成

香中研ではこの現状や課題をふまえ、研究主題を「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」として平成 24 年度から各支部・部会で取り組むこととした。その際、次の点に留意していただきたい。

- ① 次の視点などから、各支部・部会特有の現状と課題を明らかにする。例えば、
 - ・ 意図する生徒を育成する視点から、どのような教職員の資質能力や意欲が課題になっているのか。
 - ・ 継承・改善の視点から、どのような教職員の資質能力や意欲が課題になっているのか。
 - ・ これまでの研究の経緯から、どのような教職員の資質能力や意欲が課題になっているのか。
- ② できるだけ資質能力や意欲に焦点をあてた研究にする。例えば、
 - ・ どのような資質能力や意欲に焦点をあてた研究なのかわかるような研究主題にする。
- ③ 研究のねらいを明確にして、計画的に取り組む。例えば、
 - ・ 研究期間を 3 年毎の 2 サイクルで考える。特に研究期間(3 年)で何をどこまで明らかにしようとしているのか、本研究の予想される結果等研究目的を明確にして研究に取り組み、その成果と課題を研究大会で示す。残された課題については、さらに 3 年間の継続研究とする。
- ④ 本研究は、教職員一人一人の資質能力や意欲が向上し、学校の教育力が高まることを意図しているもので、個人研究ではなく、実証的かつ組織的な共同研究として行う。例えば、
 - ・ 「授業が変われば、生徒が変わる」と言われるように、授業研究を中心に意図した教師の資質能力に着目した研究を行う。
 - ・ これまでの研究体制を見直し、教職員の資質能力や意欲が高まる研究体制にする。
 - ・ 意図した教職員の資質能力がどのように高まったかどうかについての評価研究を行う。
 - ・ 県全体の研究活動の動向を見極めるため、全国学力・学習状況調査の分析等を継続的に行う。